

2017年度 地区別懇談会 実施報告（概要）

地域福祉に関わる第3次町田市地域福祉計画と、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画を推進するために、市と社会福祉協議会が協働して市内10か所で地区別懇談会を実施しました。関係各所の皆さまにはご協力をいただき感謝申し上げます。

地区名	実施日・会場	懇談会でいただいたご意見	参加人数
相原	12月12日(火) 19:00～21:00 中相原会館	地域で孤立している人がいる。担い手が高齢化している。 相原全体で生活支援を行う「相原人材 BANK」をはじめたい。 できる範囲での住民同士の支え合いが重要。	46人
玉川学園・ 南大谷	1月11日(木) 14:00～16:00 玉川学園コミュニティ センター	地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の日頃からの交流が 必要。住民相互の助け合いサービスの拡充が必要。 身近な知り合いがいる生活圏での多様な地域資源を活用した 居場所づくりをしたい。	23人
南	1月15日(月) 17:30～19:30 南市民センター	多世代交流につながるイベント実施や居場所づくりが必要。 親同士の交流の場づくりが必要。 懇談会に子育て中の親世代の参加が少なかった。	46人
町田第一 (原町田)	1月18日(木) 19:00～21:00 町田市民文学館	日頃のからの声かけ・あいさつ、イベントでつながることにより 顔の見える関係づくりを進めるとよい。 住民が地域資源を把握することが必要である。	22人
町田第二	1月24日(水) 15:00～17:00 市役所 3-1会議室	働いている若い方や男性活躍の場が地域にあるとよい。 地域の多様な主体での情報共有、地域イベントの情報集約が 必要。男性の地域参加が必要。	40人
高ヶ坂・ 成瀬	2月3日(土) 18:00～20:00 成瀬コミュニティセンター	助け合いの仕組みづくりや外出・買い物支援が地域でできると よい。男性が集まる場所、気軽に行ける場所等、多様な場が あるとよい。	47人
木曾	2月6日(火) 13:30～15:30 町田市教育センター	団地をはじめ高齢化が進行、買い物支援やゴミ出し等の 生活支援サービスが必要。 見守りにつながる地域での多世代交流、つながりづくりが必要。	36人
鶴川	2月7日(水) 19:00～21:00 鶴川市民センター	男性や学生等の多様な人に地域に関わってもらうことが大切。 誰でも気軽に集まれる場づくり、交流の場づくりが必要。	49人
忠生	2月14日(水) 14:00～16:00 忠生市民センター	「家から近いこと」、「ふらっと立ち寄れること」が気軽に集まれる 条件。「役割」があると担い手が増える。 誰もが集まれる居場所には多様なメニューが必要。	43人
小山	3月25日(日) 10:00～12:00 小山市民センター	子ども・子育て中の方に向けた場づくり。(親子で安心、外遊び、 多世代交流等) 居場所づくりのためには自宅開放、空き家活用等、 地域資源の発掘が重要。親の心のケアが必要(悩み相談等)	22人

今後は、懇談会の参加者の声を具体的な活動につなぐために、地区ごとにテーマ、目的を絞った小規模の懇談会を実施し、課題解決のための福祉ネットワークができるよう取り組んでまいります。実施結果、及び課題と方向性についての詳細は、6月に市のホームページや、社協だより特別号にてお知らせいたします。

町田市のホームページはこちらから

<https://www.city.machida.tokyo.jp/iryu/tiikihukusihoka/daisan-kondankai.html>

2017年度 町田市地区別懇談会の開催概要

1 懇談会実施概要

目的	町田市の「第3次町田市地域福祉計画」、町田市社会福祉協議会の「第四次地域福祉活動計画」に沿って、地区別の懇談会を開催した。 市計画：住民や活動団体等が顔を合わせ、地域の福祉課題等を認識し、どう取り組むとよいか考える機会となるよう、住民や活動団体等自らが、自身の地域について主体的に話し合う場を提供します。懇談会の結果は、本計画の地区活動計画に反映します。 社協計画：懇談会を通じて、地域の課題や住民ニーズなどを話し合うことで、参加住民自身の福祉意識が高まり、地区別の福祉計画の作成につながっていく。
日時	2017年12月から2018年3月
会場	市民センター、会館、市役所等
参加者数	10地区で375人
実施方法	6～7人でグループをつくり、グループディスカッション形式で実施。

2 懇談会結果から見た地区の課題と方向性

地区名	懇談会のテーマ	懇談会結果	話された内容のポイント	今後の取り組みの方向性
南	地域でできる子育て支援について	<ul style="list-style-type: none"> ●多世代交流につながるイベント実施や居場所づくりが必要 ●親同士の交流の場づくりが必要 ●懇談会に子育て中の親世代の参加が少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ●親同士が子育ての不安などを相談できたり、子育て世代が地域の子育ての先輩に悩みを話すことができる機能が必要 ●子育て世代から直接ニーズを把握することが重要(子育てサロン等へのヒアリング) 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代が参加できる多世代交流の場づくりの促進 ●子育て世代のニーズに基づいた地域の協力体制の構築が必要
高ヶ坂・成瀬	ご近所とつながりが持てない高齢者を、できるところから支える仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●助け合いの仕組みづくりや外出・買い物支援が地域できるとよい ●男性が集まる場所、気軽に行ける場所等、多様な場があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●懇談会で意見のあった助け合いの仕組みづくりに向けた検討 ●交流の場の確保のため、関係づくりの原点に立ち返ったあいさつ運動等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●既に取り組んでいる高齢者支援センターを中心とした買い物支援・生活支援の充実 ●自宅開放の協力が得ながら、住民主体の交流の場、居場所づくりを推進する
町田第一	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃からの声かけ・あいさつ、イベントでつながることにより、顔の見える関係づくりを進めるとよい。 ●住民が地域資源を把握することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のお祭り・盆踊り等のイベントによる地域の関係づくり・つながりづくりの促進 ●住民主体の街歩き、街の調査隊の結成による地域の情報の集約・発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●地区協議会が開催する「話してみる会・聞いてみる会」との連携による関係づくり・つながりづくりの具体化 ●地区懇談会での情報共有、地域資源の把握・発信の活動の促進
町田第二	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●男性の地域参加が必要 ●働いている若い方や男性活躍の場が地域にあるとよい ●地域の多様な主体での情報共有、地域イベントの情報集約が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●働いている若い人、男性が活躍しやすい環境づくりの検討 ●地域の多様な主体が集まる機会でのつながり・情報交換の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●若い世代や男性が地域活動に興味を持ち、活動に参加できるキッカケづくりの方法等の検討 ●地域の情報収集・集約、地域の多様な主体での情報共有について、懇談会で検討する
玉川学園・南大谷	近隣とのつながりから、地域の「たすけあい」「支え合い」活動へ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の日頃からの交流が必要 ●身近な知り合いがいる生活圏での多様な地域資源を活用した居場所づくり ●住民相互の助け合いサービスの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント等を活用した地域の子どもと「子ども110番の家」の住民の交流 ●多様な居場所づくりを目指して空き家・個人宅の協力を求める ●地区全体における住民相互の助け合いサービスの促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども110番の家」の子どもへの周知(学校等の関係機関との連携) ●空き家状況の把握、社会資源のリスト化等、ニーズに合った情報発信 ●住民相互の助け合いサービスの促進のための関係機関への協力依頼

地区名	懇談会のテーマ	懇談会結果	話された内容のポイント	今後の取り組みの方向性
木曾	安心して暮らせるまちづくり～見守り、声かけできる地域づくりを目指して	<ul style="list-style-type: none"> ●団地をはじめ高齢化が進行、買い物支援やゴミ出し等の生活支援サービスが必要 ●見守りにつながる地域での多世代交流、つながりづくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の他地区の事例などを参考にしながら生活支援サービスの実施に向けて検討を行う ●集合住宅が多いという地域特性を踏まえながら、多世代交流や住民同士のつながりづくりを促進する 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民相互の生活支援サービスの実施に向けた検討 ●担い手育成のための講座実施、活動リーダーの育成に向けた検討 ●つながりづくりの促進、見守りの促進
忠生	だれもが気軽に集える地域の居場所づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ●「家から近いこと」、「ふらっと立ち寄れること」が気軽に集まれる条件 ●「役割」があると担い手が増える ●誰もが集まれる居場所には多様なメニューが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●居場所として利用できる地域資源の整理 ●多様な地域住民がそれぞれの立場で役割が持てるメニューがある居場所づくりの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会資源のリスト化と情報発信 ●地域住民による居場所づくりの検討会の開催
鶴川	大好き鶴川！みんなが交流できるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●男性や学生等の多様な人に地域に関わってもらうことが大切 ●誰でも気軽に集まれる場づくり、交流の場づくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●学生も含めた若い世代、男性等、地域と関わりが薄い人が地域とつながれるようなキッカケづくりや活動 ●鶴川地区は広く、地域ごとに課題や地域資源が異なるため、身近な地域ごとの話し合いの場が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と関わりが薄い人と地域団体・関係機関の連携の機会の創出、役割を持つことができるようにする工夫 ●小地域での話し合いの場の開催、地区全体での情報共有・ネットワークの構築
小山	多世代交流の場づくり～子どもが輝けるまちづくり～	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども・子育て中の方に向けた場づくり(親子で安心、外遊び、多世代交流等) ●居場所づくりのためには自宅開放、空き家活用など、地域資源の発掘が重要 ●親の心のケアが必要(悩み相談、息抜き) 	<ul style="list-style-type: none"> ●親の心のケアのためにも、地域に多様な場があり、その情報が子育て世代につながることを重要 ●関係機関や地域活動団体が子育て世代のニーズを共有することが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域資源の発掘 ●関係機関・地域活動団体同士の情報共有・発信、交流の促進 ●子育て世代のニーズに基づく場づくり ●講座等による理解者、担い手の育成
相原	高齢者の方が地域で暮らし続けられるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で孤立している人がいる ●担い手が高齢化している ●相原全体で生活支援を行う「相原人材BANK」をはじめ ●できる範囲での住民同士の支え合いが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●担い手不足解消のため、地域住民がそれぞれ得意なことを持ち寄り、お互いを支え合う仕組みづくりを進める ●日頃からのあいさつ等から顔の見える関係づくりを促進することが重要である 	<ul style="list-style-type: none"> ●「相原人材BANK」の立ち上げ ●顔の見える関係づくりからの見守り活動の促進(「幸せの黄色いハンカチ運動(毎朝軒先に黄色いハンカチを下げても無事を知らせる)」等の実施の検討)